



難波 成任 (NAMBA Shigetou)

東京大学大学院農学生命科学研究科 (農学部) 特任教授、
総長特任補佐、EMP 副室長

東京大学農学部卒業、
同大学院農学系研究科博士課程修了。

日本学術振興会奨励研究員、東京大学農学部助手、米コーネル大学客員研究員、東京大学農学部助教授、教授、同大学院農学生命科学研究科教授、同大学院新領域創成科学研究科教授、同大学院農学生命科学研究科教授を経て 2017 年より現職。2009 年から総長特任補佐も兼務。

専門は「植物病理学」で、植物病原微生物の宿主決定・病原性決定の分子機構、植物の病気の診断と治療・予防の科学をテーマとして研究活動に取り組み、ファイトプラズマ (昆虫が媒介する微生物) の研究では世界のトップリーダーと目されている。また、世界で最初に開設され、2006 年に開設 100 年を迎えた「植物病理学研究室」の主任教授を務めた。同時に、植物の医師と植物病院構想実現を目指し、同年に「植物医科学研究室」を開設し担当している。

日本マイコプラズマ学会副理事、日本植物医科学協会理事長、農水省 農林水産技術会議委員、米国微生物学アカデミー会員。

主な著作に『植物医科学』(養賢堂)、『植物病理学』(文永堂)、『最新植物病理学』(朝倉書店)、『植物ウイルスの分子生物学』(学会出版センター)、『農学・21 世紀への挑戦』(世界文化社)、『植物ウイルス事典』(朝倉書店)、『植物病理学事典』(養賢堂)、『ウイルス学』(朝倉書店)、『新編農学大事典』(養賢堂) などがある。(著作はいずれも共著)。

日本植物病理学会学術奨励賞・学会賞、マイコプラズマ学会北本賞受賞 (2004)、国際マイコプラズマ学会 エミー・クラインバーガー・ノーベル国際賞 (2010)、紫綬褒章 (2013)、日本農学賞 (2014)、読売農学賞 (2014)、日本学士院賞 (2017) 受章・受賞。